

# 今後における中大規模の木造建築について語る！

（日本屈指の専門家を招いての講演会を開催）

ACTIVE KUMIAI



パネルディスカッションでは  
熱い議論が交わされた

一般社団法人山梨県木造住宅協会（中村伊伯代表理事）は去る10月26日、恩賜林記念館にて開催された「第1回地域材担い手セミナー H25 in 山梨」に運営協力団体として参加した。本セミナーでは「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律（以下、木材利用促進法）」の施行に伴い増

えつつある中大規模の木造建築物に対し、地域の工務店、建設会社、設計者がどのように取り組んでいくべきかについての講演及びパネルディスカッションが行われた。

セミナーは、日本屈指の木構造のスペシャリスト3名を講師に招き、1人1人講演を行った。初めに、東京大学大学院の稲山正弘教授により小規模木造設計から中大規模木造設計への転換手法についての講演が行われた。次に、東京大学の腰原幹雄教授によりRC構造、鉄骨構造における部品化、規格化を転用した中大規模木造建築の設計についての講演が行われた。最後に京都大学の五十田博教授によりRC構造、鉄骨構造、木造の良さを活かした混構造による中大規模木造の設計についての講演が行われた。

その後に行われたパネルディスカッションでは、木材利用促進法により増えつつある中大規模の木造建築物について、この動きを継続的なものとするための方策について、五十田教授がコーディネーター、稲山教授、腰原教授、さらには本協会の中村代表理事がパネリストとなり、それぞれの立場から熱い議論が交わされた。

協会ではセミナーを通じて、中大規模の木造建築物の増加と地産地建（地元の木材を使い、地元建築士が設計し、地元で材料を加工し、地元工務店が施工する）がさらに促進されることを切に願っている。



当日は県内の工務店、建築士等  
約140名の参加があった